

平成26年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第1学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・習得すべき漢字の読み書きが不十分な点及び、字形の乱雑さ、作文などの表現領域の際、使用する語彙数の不足が目立つ。 ・文学的文章での登場人物の心情把握や説明的文章での段落構成、指示語の内容指摘など、読解力の二極化が著しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時に漢字・読解の小テストを継続的に実施し、字形を整えるため硬筆書写を定期的に行う。 ・表現の授業に、俳句や文章の創作活動、また、話し合い活動の授業においては、興味関心を高める題材を使用する。 ・定期考査時に、生徒の身近な内容で放送問題や想像力を高める問題を導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の小テスト120回を、教材の復習にあたる内容で構成したことは定期考査前の家庭学習に役立った。 ・俳句や文章の創作活動は、国語の興味関心を高める上で効果的であった。 ・放送問題や想像力を高める学習教材の開発及び展開の工夫が今後の課題である。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・理解が不十分で解けない問題がある。 ・計算力は悪くないが、それでも十分とはいえない。分数や小数の計算に対して苦手意識があると思われる。 ・文章題や資料など、応用力や数学的知識を活用する力が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で知識・理解を反復することで定着を目指す。 ・文章問題の苦手意識を無くさせるために、興味のある話や身近な話の文章問題を取り扱うことから始める。 ・文章題など同じような問題でも、複数通りの解法を提示し理解させることで数学的な考え方を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭に基礎的・基本的な内容の2分間テストを実施したことで知識・理解の修得ができるようになった。 ・数学的な考え方を身に付けさせるための新たな方策について考えていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科は「暗記科目」という認識を持っている生徒が多い。 ・生徒の授業理解に差が出ており、授業中の発言数や発言内容にも影響している。 ・授業内容が定着していない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識の暗記は必要だが、生徒に適した量にし、その知識を活用して思考させる取り組みを行っていく。 ・説明を複数の段階に分け、段階ごとに発問を行うことで、苦手な生徒の理解を助ける。 ・宿題を出したり、復習小テストを行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を振りかえる内容の小テストを繰り返し実施することで、必要な知識の確認と定着を図ることができた。 ・説明を複数の段階に分けて少しずつ行った。今後、どの段階でつまづいている生徒が多いかについても把握していきたい。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・予想を立てることが不得意 ・授業での積極的な発言が少ない ・受身の授業を好む 	<ul style="list-style-type: none"> ・①文章内に空欄→②リード文から続きを記述させる→③記述など、スモールステップで予想を立てさせることに慣れさせていく。 ・隣同士、実験班内で意見交換をさせ、自分の意見を深めた後でクラス全体に向けて発表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体策のようにスモールステップの段階的な支援を続けた。自ら課題に向けての問題解決する力を育てる工夫が今後の課題である。 ・発言に関しても、徐々に積極性が出てきたため、どんな場面でも意欲的に発言できるよう、引き続き機会を設けて慣れさせる。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に表現しようとする姿勢、態度が乏しい。学習に向かう姿勢がやや消極的である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パートリーダー等、リーダーを育て、リーダーを中心に生徒間で練習をしたり、音楽づくりをする態度を養い、自ら表現しようとする姿勢を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱に対する関心意欲を高めることができた。パートリーダーや指揮者等リーダーの成長も見られた。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が感じたことを主体性を持ち表現することが苦手な生徒が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現方法や鑑賞の観点等をより具体的に示すようにし、表現の幅を広げさせる。鑑賞活動を通し、自分や他者の個性について感じたり考えたりする時間を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞活動を通して作品の見方を広げさせることができた。その結果作品で自分らしさを表現しようという意識が高まった。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・行動のけじめがなく、時間を守れない、整列が遅い、話が聞けない等授業に対する基本的な姿勢がない。 ・体力テストの結果や普段の授業の様子からも、体力低下や基本的な運動動作が身についていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な習慣が身につけていない(時間厳守、素早い行動、しっかりと話を聞く)ため、毎回の授業の中で徹底して指導する。 ・体力的にも毎年低下しており、運動経験を増やしていき、繰り返し行うことで基本的な動作を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な習慣を定着させるように徹底して指導を行い成果も表れてきた。 ・年間をとおして、補強運動や補助運動を行い、基本的な体力や運動動作の向上を図り成果も出てきた。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 〈技術〉 ・計画的に作業を進めることのできない生徒がいる。 ・提出物に関して意識の低い生徒がいる。 〈家庭〉 ・提出物に関して意識の低い生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈技術〉 ・各作業で使える時間を更に明確にし、計画的に進めるよう指導する。必要ならば、昼休み、放課後の取り組みも呼びかける。 ・提出物の意識が低い生徒については、個別の呼びかけもしているが、呼びかけの回数を増やす。 〈家庭〉 ・提出物については、個別の呼びかけ、提出の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈技術〉 ・作業の最初に使える時間や、授業毎の到達度を知らせたため、多くの生徒が時間内に作業を終えることができた。 ・授業の最後に、提出方法や期限を徹底して指導した。今後も指導を続ける。 〈家庭〉 ・忘れ物や提出物のチェックを行い改善を図った。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語や本文の発音練習のとき、声を出さない生徒がいる。発音とつづりの関係性を理解していない。 ・その日の学習でおおよそは理解できて、新しい内容を学習すると、既習事項を忘れてしまい、知識が定着していない。 ・単語や文を書くことに苦手意識を持つ生徒が多い。 ・宿題をやる習慣がない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その日に学習した内容を暗唱させて表現する時間をつくることで、自分から声を出させる。また、暗唱したあとに暗唱内容を書かせる時間をとることで、読めれば書けることを実感させる。 ・既習事項を振り返るために、毎時間の始めに帯活動を行う。 ・正しい文の書き方を定着させるために、毎時間1文でも英文を書く時間をとる。 ・宿題の点検を毎時間行い、意識を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や暗唱には積極的だが、書く力と結びついていない。 ・新しい内容の帯活動に入ると、以前の内容を忘れてしまう生徒が多かった。次年度は既習事項と関連づけた活動を考える。 ・学習内容を参考にしながら書くことはできた。次年度では自分の考えを書く時間を増やし、表現力を高める。 ・宿題の点検を毎時間行っても、一部の生徒は宿題をやる習慣がついていない。個別指導を続けていく。

平成26年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第2学年

	学力調査から見た課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章での登場人物の心情把握や、説明的文章での段落構成及び指示語内容の指摘など、読解力が不十分である。 ・漢字力の二極化が著しく、読み書きの不十分さ、使用語彙数の不足が目立つ。 ・効果的なメモの取り方、プレゼンテーション力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時での小テストで前時の復習問題を行い、単元終了ごとにまとめの問題を定期的の実施する。毎時間始業時に、授業報告を実施する。 ・俳句や短文の創作活動により習得した語句を活用させる力を身につける。 ・身近な題材を選んで、比較して説明する工夫をしたり、立場と根拠を明確にして書く練習をする。また、印象に残るプレゼンテーションの工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時の小テスト60回を、教材の復習にあたる内容で構成したことは定期考査前の家庭学習に役立った。 ・俳句や文章の創作活動は、国語の興味関心を高める上で効果的であった。創造性を高める学習教材の開発及び展開の工夫が今後の課題である。 ・要点を聞き取りメモを取る練習によりの確に内容を把握できる力を付けた。相手の考えを受け止め、自分の意見を効果的に伝える力が付いた。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査の結果からも、関心、意欲、態度は高く、授業中も積極的に取り組む生徒が多い。しかしながら、わからない問題に対しての積極性は低い。学力調査の結果からも解決する力が低いので、生徒が難しいと思う問題、特に見方、考え方に関する問題に興味を持たせる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは基礎基本を身につけるために、授業の最初に前時の復習を行う。 ・授業開始時の小テストでは見方、考え方の問題も取り扱い、多くの問題を解くことでできるようにする。 ・見方、考え方の問題は様々な解き方ができるなど、魅力を説明し興味を持たせる。また生徒が興味を持ちやすい題材にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の問題を繰り返し解くことで内容の理解が深まった。 ・見方、考え方が身に付くように工夫して指導していったが十分に力が身に付くまでには至らなかった。来年は継続して指導していく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言する生徒は多いが、けじめをつけられず私語をしてしまうことがある。 ・定期試験において、記述式の問題の正答率が低い。 ・授業内容が定着していない生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言する時と、集中して説明を聞く時のメリハリをつけさせるようにする。 ・基礎的・基本的な知識を活用して思考させる取り組みを行っていく。 ・宿題を出したり、復習小テストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を振りかえる内容の小テストを繰り返し実施することで、必要な知識の確認と定着を図ることができた。 ・学習課題について、まず自分で考え、その後班の生徒と意見交換し発表するといったグループ活動を授業の中で行った。生徒のワークシートには、他の生徒の考えにより思考の深まりを感じられる記述が多く見られた。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査から技能のポイントが低かった。実験の手順など把握せず、取り組む生徒が多い。 ・解決する力のポイントも低かった。問題演習の必要と、考える場面の必要性を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験など、全員参加型になる工夫をする。また、班の数を9班から10班に増やし、実験器具に触る機会を増やす。グラフ作成や実験のまとめなど、更に丁寧に解説していく。 ・考え方、思考力を問われる問題の演習と討論を通して考える場面を更に充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験の全員参加だけでなく、片付けも全員で行うことができた。グラフ作成の試験では正答率が高かった。 ・討論が活発化しているが、発言が偏ることがあるので、班の意見を発表する生徒は輪番制にするなど工夫したい。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・積極性はあるが、けじめのつかない行動をする生徒がおり、授業の進行を妨げることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・しっかり話を聞かせる。ルールを考えて行動する姿勢、態度を身に付けさせる。 ・興味・関心の高い題材を選択する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する姿勢は継続して指導することにより、落ち着いて取り組めるようになった。歌唱に対する関心・意欲が高いので、今後も成長が期待される。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・集中力を保つことが難しく、活動が散漫になる生徒が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート等を活用し、授業内容を細かく区切り、スモールステップを踏ませながら授業を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1時間ごとの目標を達成するよう指導し細かく目標を設定することで、時間内に作品を仕上げられるようになった。今後は作品の質の向上に関心をむけさせることが今後の課題である。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対して積極的に活動する生徒が多いが、考えて動く力が弱く、時間を守れなかったり、行動が遅いことがある。 ・体力測定では、特にハンドボール投げに課題がある。 ・基本的な体力が低いので、色々な経験をさせて、頭で考えていることと体が一致できるように課題練習が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が考えて動く時間を各種目で設定し、行動する力を高めていけるようにする。また、学習カードを用いて考えることや授業を振り返るように教材を工夫する。 ・年間を通して、体の使い方を繰り返し実践で指導していく。 ・各種目で、補強運動・補助運動を取り入れ、様々な動きを経験させていく。また、目と体の協応動作に着目し、運動した動きを取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考え、声を掛け合いながら互いを高め合えるような活動を目指し、実践しようとする様子が見られた。 ・体の使い方を、各単元の特徴に合わせて行えた。 ・動くことの経験を様々な角度から見直し実践してきた。体力向上や基本的な動作の向上が見られた。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> 〈技術〉 ・多くの生徒はまじめに取り組んでいるが意欲に欠ける生徒もいる。 ・製作途中での点検に提出できない生徒がいた。 〈家庭〉 ・提出物に関して意識の低い生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈技術〉 ・できるだけ分かりやすい説明を心がけ、興味をもって1時間取り組めるよう、動機付けに力を入れる。 ・欠席すると作業も遅れ、提出日に間に合わないので、欠席者への対応を、丁寧にを行う。 〈家庭〉 ・提出物については、個別の呼びかけ、提出の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 〈技術〉 ・実物投影機などを使い説明した。頼りすぎる生徒に対しては、自ら考えて進められるよう指導をした。 ・欠席者には、昼休み、放課後取り組むよう指導した。今後も続ける。 〈家庭〉 ・忘れ物や提出物のチェックを行い改善を図った。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・動詞の過去形など、基本的な文法はある程度理解しているが、文構造の理解と定着率が低い。 ・多くの生徒に、たとえ間違えても、いくつかの英文を使って表現しようとする意欲が見られる。 ・長文を正確に読み取る力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法を、基礎的事項に重点を置きながら指導する。文構造については、ドリル学習時に強調して指導したり、文法を踏まえた表現活動に力を入れることで、定着を図っていく。 ・語彙力のアップを図ったり、音読を繰り返させたり、暗唱させたりして表現のインプットを図る。また、多くの英文に触れさせたり、精読も行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を表現活動を通して復習しているものなどは、ある程度定着していると思われる。しかし、難しい文法事項もあるので、3年時に復習の機会を持つ。 ・単語テストや音読などにより、読解の基礎となる力は向上していると思われるが、正確な読みとりはまだ課題だと思われる。これからも読解指導・文法指導を丁寧にやっていく。

平成26年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬中学校第3学年

	学力調査から見えた課題(調査のない教科は授業における課題)	授業改善のための具体策(重点)	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章での登場人物の心情把握や、説明的文章での段落構成及び指示語内容の指摘など、読解力が不十分である。 ・既習漢字の読み書きの不十分さ、適切な使用の不十分さが目立つ。 ・知識を整理して書く力、体験と意見を区別して書く力、効果的に根拠を用いて意見する力の不足がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業開始時での小テスト及び授業報告で前時の復習を行い、単元終了ごとにまとめの問題を定期的実施する。 ・俳句や短文の創作活動により習得した語句を活用させる力を身につける。 ・自分の知識や経験を整理して聞き手の求めや反応に応じて話す練習を実施、立場と根拠を明確にして書く練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章に即して根拠を捉え、心情をつかむことが出来るようになった。説明文の段落構成を抑えることで、論理の展開を把握する練習をした。また、具体と抽象を抑えることで筆者の主張をとらえられる力がついた。 ・体験を根拠とし、意見を書く練習により、10分程度で200字程度の意見文を書く力がついた。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・文章から数量の関係を見出し、式化すること、特に関数の関係にあることへの気づきが弱い。 ・図形の移動や、体積比など、2つの図形を比べ、その関係を考える力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象、特に関数の関係にあるものを取り上げ、数学的なもの見方で捉えられる授業を展開する。 ・授業初めの計算問題で、1、2年次の復習を重点的に行い、比例と一次関数や、図形の合同と相似など、既習事項とのつながりを感じさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめに、復習テストを導入し、意図的に苦手な分野に目を向けさせることで、基礎的な力や見方を深められた。 ・基礎コースと標準コースの差が大きく中位層のレベルアップが課題である。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解を支える知識の定着が完全でない。教科書の太字レベルの用語の周辺にある知識までしっかり身につける必要がある。 ・理解すべき内容が複雑になっていく中、前の授業内容をしっかり理解しておくことが大切となるが、あまり復習がなされていない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業冒頭の小テストで、必要な知識の確認と定着を図る。 ・授業の導入は必ず前の授業内容の確認を行う。ただ説明するだけでなく、質問をし、思い出させるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の内容を振りかえる内容の小テストを繰り返し実施することで、必要な知識の確認と定着を図ることができた。 ・前回の復習を必ず授業冒頭に取り入れることで、スムーズに授業内容の理解をすることができた。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然現象や実験結果を定量的に扱うことを苦手としている。 ・実験結果の考察など、一問一答で答えることができない課題について自らの言葉で表現する力が全体的に不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に練習問題に数多く取り組み、またグラフを積極的に用いるなどして、定量的に扱うことに対する思考的な手助けを行う。 ・一人一人が個人の考えを書く時間を授業内で確保し、また発表させることにより、少しずつ力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフを書く練習を授業の中で数多く取り入れることにより、数量的な関係について考える力が深まった。 ・個人の思考を深めることができたが、発表の時間を多く取ることが出来なかった。計画的に発表の時間を確保できるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・全般に意欲的であるが、男子に比べ女子がやや消極的で、声量が弱くなることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸法や発声の仕方を確認し、豊かな発声の仕方を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・男女ともに合唱への意欲がより高まり、充実した表現力を身に付けさせることが出来た。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的な技能を、制作活動に活かすことが苦手な生徒が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面の指導をかみ砕いて行うようにする。個別に指導する時間を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別にこまめな声かけを行った結果、おおむねの生徒が作品へ技能をいかせるようになった。
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に授業に参加するが、内容の理解ができていない。 ・3年間の総まとめとして、各単元の内容理解を高めたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の理解を深めるため、毎時間の授業のねらいを明確にさせる。 ・各単元の振り返りをし、内容理解を高める。そのためには、自己分析をしっかり行わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各単元学習カードを活用し、グループ活動の中で、自己分析や他者評価を行い内容理解を深められた。 ・意欲が高いが、思考的な部分で評価の低さがあったため、授業内容の見直しを図りたい。
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> <技術> ・作業前に説明を行い、各自後作業に入るが、作業中再び、説明内容を聞く生徒がいる。 <家庭> ・幼児や家族について、関心の低い生徒がいる。 ・提出物に関して意識の低い生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> <技術> ・実物を使い、更に理解しやすい説明の実施。板書内容を記入させたプリントを作業場所に持って行かせる。 <家庭> ・保育については、「幼児の成長に関すること」や「家族について」を意識した授業づくり、教材研究を行い、意識や意欲を高めさせる。 ・提出物については、個別の呼びかけ、提出の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> <技術> ・意欲を持って説明が聞けるよう発問や、考える時間を作る。 ・授業中いつでも確認できるように、板書やプリントを用意する。 ・生徒が互いに確認しながら進められるように進度を調整する。 <家庭> ・総合学習の時間で体験した赤ちゃんのチカラプロジェクトの影響もあり、「幼児の成長に関すること」や「家族について」の意識や意欲が高まった。 ・忘れ物や提出物のチェックを行い改善を図った。
外国語(英語)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外の単語、連語など、広く一般的な英語の知識が十分ではないため、長文読解が苦手な生徒が多い。 ・知識として身に付いた不規則動詞の変化等が、実際の文章の中で活用する力が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外の単語や連語等のドリルを繰り返し行い幅広い知識を身につけさせる。 ・教科書以外の読み物にも触れさせ、長文に慣れ親しませる。 ・覚えた知識(特に不規則動詞)を文の中で使う演習を繰り返し行い、動詞の使い方のパターンを身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書以外の教材を使ったことで、単語、連語の知識がある程度つき、長文にも慣れさせることができた結果、読解力が全体的には伸びた。 ・不規則動詞の活用については十分な力をつけることができなかった。定期的に計画的に取り組む必要がある。